

## 洛中洛外図屏風の総合的アーカイブと 都市風俗の変遷

### A. メンバー

【事業推進担当者】松本郁代・川嶋將生

【客員研究員】出光佐千子・張建立

【PD】彬子女王

### B. 研究目的

かつて浮世絵と同義語として扱われた「風俗画」という言葉は、1957年ころから浮世絵とは切り離され、むしろ人びとの生活実態を描いたもの、との理解が進められてきた。「洛中洛外図屏風」は、京都の景観と都市住民の生活・習慣・行事・姿態などを描いた風俗絵である。

本プロジェクトでは、「洛中洛外図屏風」を中心的素材としながらも、それだけではなく、そうした絵画その他の記録、表現された豊かな情報を読み解くことで理解できる京都の都市イメージを多角的に探求し、さらに、かつて存在した空間世界を具体的に表現することを追究する。

さて今日、一般的に用いられている「風俗画」の概念について、その概念がいつ頃から、どのような契機で提起されるようになったか、これまで実に曖昧に処理されてきた。本プロジェクト研究では、理論と証明の追究を二本柱としており、これらの点については、すでに研究会の討論過程で明らかにしてきたし、研究会の成果として出版した『風俗絵画の文化学－都市をうつすメディア－』（2009年、思文閣出版）においても明らかにして

きた。

プロジェクトメンバーはまずそれを共有したうえで、美術・歴史・文学・芸能など、多分野からこの問題にアプローチし、都市イメージの問題に取り組む。加えて現在、日本に所在する美術品だけではなく、近代以降、日本から流出していったさまざまなコレクションも分析対象とするとともに、海外における美術研究の方法論なども視野に入れ、この問題にアプローチする。

なお建造物の歴史の変遷や、絵画上の人物の動きなどをCG化する研究グループに対しては、コンテンツ提供とともに、共同研究の連携を深めていきたい。

### C. 本年度の成果

#### 1) シンポジウムの開催

①「文化財の過去・現在・未来－モノの記憶を残す方法－」2011年12月17日・18日。立命館大学〈朱雀キャンパス〉大講義室。

昨年に続く第2弾のシンポジウムを、彬子女王殿下企画、松本郁代准教授の補佐で、開催した。開催の意義については、以下に開催趣旨文を引用しておく。

本シンポジウムは、2010年4月に開催した国際シンポジウム「文化財の過去・現在・未来－デジタルとアナログ共存の意義－」を引き継いだ続編

として開催するものである。前回のシンポジウムは、文化財保護・継承に携わる人に注目したが、今回は文化財にまつわるモノに注目したい。前回指摘された問題の一つに、継承する技術はあるのに、それを支える材料がなくなりつつあるがために、遺していくことが困難な事例が挙げられた。今回のシンポジウムでは、文化財を支えるモノが抱える現状を明らかにし、そのモノを未来に残していくための方法を考えていく。

モノを残していくためには、モノそのものを残す方法の他に、モノの「記憶」を残す方法があると考えられる。本拠点が推進している日本文化にかかわる文化財のデジタルアーカイブ化とデータベース構築は、モノの記憶を残す手段の一つである。本シンポジウムでは、文化財保護・継承に携わる多分野の方々に、美術館・博物館、大学、行政、現場、それぞれの立場の見地から議論し、モノの記憶を未来に永く伝えていくための可能性を検討する試みである。



シンポジウム開催のチラシ（表）

上記の趣旨にしたがって、2日間にわたるシンポジウムが開催された。講演者・パネラー、および講演テーマ等は以下の通りである。

初日 17日は飯田健夫（立命館大学副総長）と赤

間亮（本拠点リーダー）による挨拶のあと

〈基調講演〉

・千玄室（裏千家前家元）「守る人の心」

〈発表〉

・室瀬和美（漆芸作家）「漆－有形・無形の伝え方－」



千玄室氏の講演

・田辺小竹（竹芸作家）「つくり手としての竹芸の継承」

・河合真如（神宮司庁広報室長）「神話と科学と式年遷宮」

の報告が行われ、その後、室瀬・田辺・河合三氏と司会として川嶋将生が加わり、パネルディスカッションが行われた。

2日目 18日は午前

〈講演〉

ジョン・マック（イースト・アングリア大学教授）

「場所の歴史、場所の記憶－大英博物館の場合」

〈発表〉

・サイモン・ケイナー（セインズベリー日本藝術研究所副所長）「文化遺産研究としての考古学：今後の縄文博物館についての考察」

・原田昌幸（文化庁美術学芸課主任文化財調査官）

「考古学研究に見る土偶の変遷」

が行われ、午後から

- ・青柳正規（国立西洋美術館館長）「デジタル文化財が果たす役割と未来像」
- ・矢野桂司（立命館大学教授）「バーチャル京都で歴史都市京都の文化を継承する」
- ・彬子女王（立命館大学衣笠総合研究機構 PD）「文化財の現在・過去・未来－モノの記憶を遺す方法－」

の発表が行われた。その後、松本郁代・彬子女王2名を司会として、パネルディスカッションが行われ、会場からも多くの意見が寄せられた。



二日目全体討論

参加者は両日ともに200名を超え、こうした問題についての関心の強いことが改めて認識することができた。そして昨年と今回の2回のシンポジウムを通じて、課題や新たに浮かび上がってきた問題点も多く、また議論の継続を望む声も多く寄せられた。GCOEは今年度で終了するため、今後、議論の継続をどのような形で計っていくかが、検討課題である。

## 2) 研究会の開催

今年度も例年の通り、夏・冬2回の研究会を開催した。報告者・報告内容は以下の通りである。

開催場所はいずれもARC。研究発表者と報告テーマは以下の通りである。

### ① 7月30日（土曜）

- ・山本真紗子（立命館大学・PD）  
「近代京都の「風俗画」－舞妓と大原女－」
- ・マシュー・マッケルウェイ（コロンビア大学准教授）  
「最大の洛中洛外：新出洛中洛外図の制作環境を巡って」

### ② 7月31日（日曜）

- ・呉孟晋（京都国立博物館・学芸員）  
「近代中国における「風俗」へのまなざし－蔣兆和筆流民図を手がかりに－」
- ・松本直子（元離宮二条城事務所・学芸員）  
「吉祥画としての四季耕作図－狩野永岳《四季耕作図屏風》を中心に－」



冬の研究会風景

### ③ 12月24日（土曜）

- ・宮崎もも（大和文華館・学芸員）  
「円山派の美人画－応挙・素絢・南岳を中心に－」
- ・赤間亮（立命館大学）  
「役者絵本の行方」

### ④ 12月25日（日曜）

- ・吉住恭子（京都市歴史資料館）  
「平安時代の室礼－打出を中心に－」
- ・植田彩芳子（京都文化博物館）

## 「黒田清輝《昔語り》と京都」

以上の研究活動を承けて、松本郁代・出光佐千子・彬子女王編による論集の第2弾を今年度末に出版するため、現在、編集作業を進めている。出版社は1冊目と同じく思文閣出版である。論集のタイトルは『風俗絵画の文化学－虚実をうつす機知－』で、その構成と執筆者・論題は以下の通りである。

### 「序章」

- ・松本郁代（横浜市立大学）「虚実をうつす機知－文化学の射程－」

### 第一部「祝祭の視界と権力の描写」

- ・廣海伸彦（出光美術館）「狩野内膳筆「豊国祭礼図」論」
- ・松島 仁（国華社）『「帝鑑図説」と徳川将軍の〈中華〉』
- ・八反裕太郎（颯川美術館）「神宮文庫蔵「祇園祭之図」について－祇園祭礼図の成立に関する試論－」
- ・河内将芳（奈良大学）「戦国期京都の祇園会と絵画史料－初期洛中洛外図を中心に－」

### 第二部「他者の視線と日常の表象」

- ・タイモン・スクリーチ（ロンドン大学 SOAS）「風俗画－「浮きたること」を取り締まる－」
- ・川嶋将生（立命館大学）「喝食の額髪－「銀杏の葉」型額髪の意味をめぐって－」
- ・日野原健司（太田記念美術館）「浮世絵にみる江戸の園芸文化－植木売り・植木市・植木鉢－」
- ・鈴木桂子（立命館大学）「浮世絵にみる他者の視覚化－「唐人」という視点から考える－」

### 第三部「表現の形象と古典の流通」

- ・岡本麻美（山口県立美術館）「池上本門寺所蔵「大江山縁起図屏風」小考」

- ・石上阿希（立命館大学）「西川祐信の絵本と江戸の春本－鈴木春信・北尾重政を中心に－」

- ・奥田敦子（墨田区文化財課）「初期団扇絵の事例と宝暦年間の弘法大師信仰の流行について－墨摺団扇絵「弘法利生水」、紅摺団扇絵「大師弘法御利生の水場」の紹介を兼ねて－」

### 第四部「作品の享受と意匠の変遷」

- ・出光佐千子（出光美術館）「池大雅筆「瀟湘八景図」研究－詩画一致の観賞方法から－」
- ・池田美美（サントリー美術館）「英一蝶「四季日待図巻」を読み解く－〈座敷芝居〉にみる江戸中期の芸能上演－」
- ・坂口さとこ（京都造形芸術大学）「近代京都の光琳派意匠に関する一考察－浅井忠と神坂雪佳の比較から－」
- ・彬子女王（立命館大学）「風俗画と京都－京都商品陳列所の公式カタログに描かれた風俗画を中心に－」

GCOE プログラムは今年度で終了するが、本研究会は、アート・リサーチセンターを会場として、次年度以降も継続して開催していくことが、冬の研究会参加者との協議により決定された。

なお松本郁代・川嶋将生の共同研究により今年度の出版を目指した「京洛月次風俗図巻」（立命館大学アート・リサーチセンター蔵）については、全ての原稿を予定通り完成させたが、昨今の出版事情もあって今年度の刊行は断念した。次年度以降、公開についての何らかの方策を模索していきたい。

## D. 論文・学会発表以外の活動の記録

特記事項なし。

## E. 業績一覧

### 〈著書〉

松本郁代, 出光佐千子, 彬子女王『風俗絵画の文化学Ⅱ—虚実をうつす機知—』思文閣出版, 450p., 2011年3月30日

出光佐千子, 黒田泰三『大雅・蕪村・玉堂と仙厓—『笑』のころ』, 出光美術館, 126p., 2011年9月

### 〈著書 (分担執筆)〉

彬子女王「風俗画と京都—京都商品陳列所の公式カタログに描かれた風俗画を中心に—」松本郁代, 出光佐千子, 彬子女王編『風俗絵画の文化学Ⅱ—虚実をうつす機知—』思文閣出版, pp.411-431, 2012年3月30日

彬子女王「19世紀英国における円山四条派理解について—英国人蒐集家が京都の画師に寄せた思い—」富田美香, 木立雅朗, 松本郁代, 杉橋隆夫編『京都イメージ—文化資源と京都文化—』ナカニシヤ出版, pp.44-57, 2012年3月30日, Princess Aliko of Mikasa, "The Art of the Maruyama-Shijō School in 19th century Britain: British Collectors on Kyoto Painters", Mika Tomita, Masaaki Kidachi, Ikuyo Matsumoto and Takao Sugihashi, "*Urban Image of Kyoto: Kyoto Culture and its Cultural Resources*", Nakanishiya Shuppan, pp.164-175, 30 March 2012

出光佐千子「文人たちの談笑サロンへの招待—大雅の咲い・蕪村の嗤い」出光佐千子, 黒田泰三『大雅・蕪村・玉堂と仙厓—『笑』のころ』, 出光美術館, pp.6-8, 2011年9月

出光佐千子「池大雅筆『瀟湘八景図』研究—詩画一致の鑑賞方法から—」松本郁代, 出光佐千子, 彬子女王編『風俗絵画の文化学Ⅱ—虚実をうつす機知—』, 思文閣出版, pp.313-346, 2012年3月30日

川嶋將生「中世における稲荷信仰の隆盛」『伏見稲荷大社御鎮座千三百年史』伏見稲荷大社, pp.117~178, 2011年10月

川嶋將生「全体概説」甲賀市史編さん委員会『甲賀市史 第2巻 甲賀衆の中世』甲賀市, p.1-6, 2012年2月

川嶋將生「1章概説」甲賀市史編さん委員会『甲賀市史 第2巻 甲賀衆の中世』甲賀市, p.7-9, 2012年2月

川嶋將生「武家の台頭」甲賀市史編さん委員会『甲賀市史 第2巻 甲賀衆の中世』甲賀市, pp.10-27, 2012年2月

川嶋將生「甲賀上郡・下郡」甲賀市史編さん委員会『甲賀市史 第2巻 甲賀衆の中世』甲賀市, p.28-46, 2012年2月

川嶋將生「2章概説」甲賀市史編さん委員会『甲賀市史 第2巻 甲賀衆の中世』甲賀市, p.83-85, 2012年2月

川嶋將生「3章概説」甲賀市史編さん委員会『甲賀市史 第2巻 甲賀衆の中世』甲賀市, p.187-189, 2012年2月

川嶋將生「4章概説」甲賀市史編さん委員会『甲賀市史 第2巻 甲賀衆の中世』甲賀市, p.321-323, 2012年2月

- 川嶋將生「文芸と芸能の展開」甲賀市史編さん委員会『甲賀市史 第2巻 甲賀衆の中世』甲賀市, p.448-470, 2012年2月
- 川嶋將生「喝食の額髪—『銀杏の葉』型額髪の意味をめぐって」松本郁代, 出光佐千子, 彬子女王編『風俗絵画の文化学Ⅱ—虚実をうつす機知—』思文閣出版, pp.163-180, 2012年3月30日
- 川嶋將生「古筆と極め—その歴史的意義」富田美香, 木立雅朗, 松本郁代, 杉橋隆夫編『京都イメージ—文化資源と京都文化—』ナカニシヤ出版, pp.1-13, 2012年3月30日, Masao Kawashima, 'Kohitsu and Kiwame -Their Historical Meanings', Mika Tomita, Masaaki Kidachi, Ikuyo Matsumoto and Takao Sugihashi, "Urban Image of Kyoto: Kyoto Culture and its Cultural Resources", Nakanishiya Shuppan, pp.119-131, 30 March 2012
- 張建立「わびの営為—日本のルサンチマンの具現化」王勇編『東亜文化的伝承與揚棄』中国書籍出版社, pp.380-390, 2011年7月1日
- 松本郁代「中世密教における神の位相—密教王としての天皇即位と『大日本国』」伊藤聡編『中世神話と神祇・神道世界』竹林舎, pp. 83-104, 2011年4月
- 松本郁代「仏教的世界観における都と天皇—中世日本の世界認識」木立雅朗, 富田美香, 松本郁代編『京都イメージ—文化資源と京都文化—』ナカニシヤ出版, pp.28-43, 2012年3月30日, Ikuyo Matsumoto, 'Emperor and Capital in the Buddhist Worldview: The Perception of the World in medieval Japan', Mika Tomita, Masaaki Kidachi, Ikuyo Matsumoto and Takao Sugihashi, "Urban Image of Kyoto: Kyoto Culture and its Cultural Resources", Nakanishiya Shuppan, pp.146-163, 30 March 2012
- 松本郁代「虚実をうつす機知—文化学射程」松本郁代, 出光佐千子, 彬子女王編『風俗絵画の文化学Ⅱ—虚実をうつす機知—』思文閣出版, pp.3-19, 2012年3月30日
- 松本郁代『甲賀市史』第2巻「甲賀衆の中世」所収、第4章1節「信仰の中世的展開」pp.324-362, 甲賀市, 2012年2月

## 〈論文〉

- 彬子女王「大英博物館所蔵アンダーソン・コレクションの可能性」『豊饒の日本美術—小林忠先生古稀記念論集』藝華書院, pp.392-97, 2012年3月
- 出光佐千子「池大雅の瀟湘八景図研究—織り込まれた四季の意味」鹿島美術研究年報別冊(鹿島美術財団), 28, pp.141-152, 2011年11月
- 出光佐千子「館藏品紹介 立原杏所筆『七絶詩』・春沙筆『遊小魚図』の鑑賞—南宋の文人・陸游に擬えて」出光美術館館報, 157, 出光美術館, pp.36-43, 2012年2月
- 出光佐千子「池大雅による光の描写と黄檗美術—黄檗山萬福寺蔵『書画禅冊葉』の体験」出光美術館研究紀要, 17, 出光美術館, pp.73-92, 2012年3月
- 出光佐千子「池大雅と立原杏所の理想郷—杏所に流れる大雅風の検証」豊饒の日本美術, 小林忠先生古稀記念編集委員会, pp.268-273, 2012年3月

張建立「中日喫茶法概説」中国社会科学報, 193, p.24, 2011年6月2日

Princess Akiko of Mikasa 'The Art of Copying: Reproductions of Japanese Masterpieces in the British Museum' Michelle Huang ed., *"Beyond Boundaries: East & West Cross-cultural Encounters"*, pp.74-85, November 2011

#### 〈招待発表〉

彬子女王「大英博物館に集った日本人—明治・大正期の日本美術研究の視点から—」立命館大学 R-GIRO プロジェクト「第二次世界大戦による在外日本人の強制退去・収容・送還と戦後日本の社会再建に関する研究」6月研究会, キャンパスプラザ京都(京都市), 2011年6月18日

彬子女王「英国における日本美術研究の萌芽—古筆了任を中心に—」国際日本文化研究センター共同研究会「東洋美学・東洋的思惟を問う」, 国際日本文化研究センター(京都市), 2012年1月20日

彬子女王「海外における『日本』像の発信—大英博物館の事例を中心に—」学習院大学東洋文化研究所主催国際シンポジウム「見せるアジア、見られるアジア—近代国家と博覧会・博物館」, 学習院大学中央教育研究棟12階 国際会議場(東京都), 2012年1月28日

松本郁代「中世における天皇の身体と即位灌頂」日本思想史学会2011年度大会シンポジウム「カミになる王—思想史の視点から」, 学習院大学(東京都), 2011年10月

#### 〈口頭発表〉

彬子女王「大英博物館における『日本美術史』の形成—20世紀初頭の変革を中心として—」第64回美術史学会全国大会, 同志社女子大学新島記念講堂(京都市), 2011年5月

彬子女王「文化財の現在・過去・未来—モノの記憶を遺す方法—」国際シンポジウム「文化財の現在・過去・未来—モノの記憶を残す方法—」, 立命館大学朱雀キャンパス(京都市), 2011年12月18日

川嶋將生「喝食の額髪—『銀杏の葉』型額髪の文化史上の意義を求めて」世界人権問題研究センター第2部会, 世界人権問題研究センター(京都市), 2011年5月18日

川嶋將生「祇園祭—山鉦が辿った道」地域伝統文化研究会、立命館大学朱雀キャンパス(京都市), 2011年7月16日

川嶋將生「前近代の日本における穢れの認識」ワークショップ「日本における社会認識と国際性—前近代を中心に—」, 南カリフォルニア大学(USA), 2012年3月9日

Princess Akiko of Mikasa, 'What is the History of Japanese Art?: Displaying Japanese Antiquities at the British Museum', *The 13th International Conference of the European Association for Japanese Studies (EAJS)*, Tallinn University (Tallinn, Estonia), 24-27 August 2011

#### 〈招待講演〉

彬子女王「大英博物館に生きる日本の心」とよた光の里後援会主催特別講演会, 豊田キャッスルホテル(愛知

県豊田市), 2011年5月22日

彬子女王「大英博物館を彩った日本美術—明治期の日英文化交流を中心に—」文部科学省「国際共同に基づく日本研究推進事業」法政大学国際日本学研究所「欧州の博物館等保存の日本仏教美術資料の悉皆調査とそれによる日本及び日本観の研究」プロジェクト定期講演会, 法政大学(東京都), 2011年6月22日

彬子女王「英国人医師に教えられた日本美術史—ウィリアム・アンダーソンと大英博物館の日本美術コレクション—」消化器内視鏡学会総会, 国際会議場(名古屋市), 2011年8月18日

彬子女王「日本美術史のはじまり—ウィリアム・アンダーソンと大英博物館—」第66回学習院大学史料館講座, 学習院創立百周年記念会館(東京都), 2011年11月26日

#### 〈講演〉

川嶋將生「室町時代の文化—庭園の美」京都市生涯学習総合センター(京都市), 2011年11月25日

#### 〈その他〉

##### 《シンポジウム》

松本郁代、彬子女王「国際シンポジウム 文化財の現在・過去・未来—モノの記憶を残す方法—」, 立命館大学朱雀キャンパス(京都市), 2011年12月17-18日

##### 《講座》

松本郁代「中宮御産と真言密教—ある中宮の御産の記録から—」横浜市立大学松本ゼミ×神奈川県立金沢文庫主催「中世仏教文化と金沢区文化財の魅力—神奈川県立金沢文庫特別展《愛染明王》によせて」, 横浜市立大学(横浜市), 2011年11月

松本郁代「横浜市立大学所蔵古典籍の伝来を探る—森鷗外・赤シャツ・平田篤胤が手にした本たち—」横浜市立大学学術情報センター市民講習「横浜市立大学所蔵貴重書の魅力—古典籍に親しむ方法のあれこれ—」, 横浜市立大学(横浜市), 2011年11月

##### 《展覧会》

出光佐千子『大雅・蕪村・玉堂と仙厓—『笑』のころ』出光美術館, 2011年9月10日~10月23日

##### 《書評》

松本郁代「伊藤聡『天照大神信仰の研究』」週刊読書人, 2887, 4p. 2011年5月

##### 《新聞報道》

彬子女王「彬子女王殿下が御企画—『モノの記憶を残す方法』立命館大学でシンポ」神社新報, 2012年1月1日

##### 《その他執筆》

彬子女王「彬子女王殿下が贈る日本美のころ」和楽(小学館), 2011年1月号より連載中

彬子女王「オックスフォード留学記—中世の街に学んで」Voice(PHP研究所), 2012年4月号